

## 色々な気持ちのありがとう

大分県 国東市立富来小学校 六年

小柳南実

私の祖父は、植物や庭の手入れが趣味です。祖父とは一緒に住んでいるので、庭を手入れしている姿がよく見えます。今日も暑くないのかなと心配になりました。

今年、休校になり、妹と一緒に外に出る機会が増えました。庭で遊んでいると、今日も祖父は草取りをしています。私は気にせず遊んでしまいました。家に入ったら、

「ジジ、暑いのによく草取りするよね。」

と祖母に、何気なく言いました。そして、

「いつもそうよ。気付いたら外にいるんだよ。もう八十歳超えちゃうのに。南実ちゃん、手伝ってあげた?」

「いや。」

私は祖母の言葉が心にさざりました。モヤモヤしました。落ちていて考えると、何で手伝わなかったんだろう、ありがとうも言わないで。考えれば考えるほど、後悔しました。けど、今さらまだ間に合う、祖父が外にいるからと思い、急いで庭に行きました。祖父の姿を見ると、暑いのに肌を出さずに、大きい帽子を深くかぶっていました。うつすらと見える顔は赤くなり、汗をたくさんかいていました。

「ジジ、さっきは手伝わなくてごめんね。何か手伝うよ。」

と言って、近くにあった草を抜きました。手を止めずどんどん草を抜き、祖父はおどろいていました。二人で草取りをして庭は見ちがえるほどきれいになりました。

「さてと、十分きれいになったな。南実、ありがとう。暗くなるけん、家の中入りよ。」

祖父は、自分のことは後回しにして、私のことを言ってくれました。

「ジジ、いつもありがとう。今度するときは、私にも声かけてね。手伝うけんね。」

「いいのか?大丈夫か?」

「うん!」

私は祖父への感謝の気持ちがあふれ出しました。草取りだけではなく、普段の色々な気持ちをこめた、ありがとうを言いました。気持ち良かったです。

しばらくして、祖母から、

「南実ちゃん、ジジの草取り手伝ったん。ありがとうっちゃん言ったん?」

と優しい声で聞かれました。私は、

「うん、けどね、それはさっきパパが手伝いよっちゃん言っただけ。言われんかったらしてなかった。」

と素直に答えました。

「言われてやったのもすごいやん。ジジな、手伝ってくれるの南実だけやっち泣きよったよ。」

それを聞き、私は祖母の前では涙をこらえ、部屋でこっそり泣いてしまいました。

「ありがとう。はいろんな意味がある。そう思うので、これからも堂々と言いたいです。」

「ありがとう、おじいちゃん!」